

なかにし 礼(なかにし・れい)

昭和 13 年、中国黒龍江省牡丹江市生まれ。22 年から 28 年まで青森市在住。作詩家として「知りたくないの」「今日でお別れ」「石狩挽歌」「時には娼婦のように」「北酒場」など約四千曲の作品を創る。その後、作家活動を開始、平成 10 年『兄弟』。次作『長崎ぶらぶら節』で 12 年第 122 回直木賞受賞。13 年『赤い月』、14 年『てるてる坊主の照子さん』などの作品がある。舞台作品の台本・演出も手がける。

当館特別展「平成の青森文学」図録(平成 30 年 7 月 14 日発行)より